

二〇二二年度入学試験

一般方式試験問題

国語

注 意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二、受験番号を解答用紙の二カ所¹に書き、答えはすべて**解答用紙**に書きなさい。
- 三、問題は **1** から **3** までで、十一ページにわたって印刷してあります。
- 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

セントヨゼフ女子学園中学校

1 次の各問いに答えなさい。

問1 線のカタカナを漢字に直しなさい。送りが必要な場合は、それをひらがなで書きなさい。

(1) 呪文をトナエル。

(2) ごみをブンベツする。

(3) 胸をソラス。

(4) タダチニ出発する。

(5) おだやかなクチヨウで話す。

問2 線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

(1) 才能を育む。

(2) 時間を費やす。

(3) 険しい表情。

(4) 所作の美しい女性。

(5) 養生して休む。

【2】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

あのUFOが昨夜また現れたという噂を耳にしたのは、ついさっきのことだ。

校門を出たところで、三、四年生の子たちが真面目な顔を突き合わせて、光の色がどうのこうのと話していた。

うちのクラスの中でも少しは話題になっていたのかもしれないけど、表沙汰にならなかったのは、皆それどころじゃなかったからだろう。

っていうか、オレとしては断然①そっちのほうに興味あったのに、どいつもこいつも海堂海堂ってさ……

なんて、公園の脇で一人、②暇を持って余していると、

「あれ、吉野くんじゃないですか」

不意に後ろから声をかけられた。小早川くんだ。

手にサラリーマンの通勤カバンみたいなのを提げている。

「誰かと待ち合わせですか」

正直に答えるのも照れくさいし、いろいろ面倒だから、「いや、別に」とごまかしついでに、「あ、そうだ、小早川くんはUFOの噂、どう思う？」なんて、思いつくまま、適当に話題を変えてやった。

すると、「もちろん信じますよ」って意外な答えが返ってきた。

「もともと③宇宙人の乗り物だという説にはあまり関心がありませんけど」

「え、どういうこと？」

「そもそもUFOというのは、未確認飛行物体つまり正体不明の飛行物体全般のことを指す呼称なんです。現時点においてもつばら僕が支持するのはやはり大気プラズマ説ですね。科学的にも実証されていますし、もともと現実的と言えますから。簡単に説明しますとプラズマというのは電子が原子に戻ろうとする時に光を放出し——」

別の話題にすりやよかつたなと後悔しつつ、訊いた手前ひと通り相槌を打ちながらタイミングを見計らい、「そのカバンは？」って指差した。そしたら、

「ああ」とゴツイ腕時計に目をやって、「これから塾ですの、このへんで」と言っ、A去っていった。

毎日塾通いだなんて、一体一日にどれだけ勉強してるんだろうか。④単純に気になるところだ。

とは言え、⑤あいつのことと比べたら、『気になり度数』のレベルは全然違うわけだが……

ふと思立ち、歩道脇に連なっている鎖を跨いで、草むらに足を踏み入れた。

ひよる高くしなやかに伸びる松の木々の間を縫っていくと、程なくして石畳の遊歩道にぶつかる。

少し先には青銅色の古びたガス灯が立っていて、脇にぼつんと、取り残されたような水飲み場があった。

考えてみれば、ずっと同じ場所でウロウロしているのも妙だし、このへんなら晴香が来てもすぐに分かるだろう。何より涼しくていいや。

オレはさっそく乾ききった喉を潤すと、体中に心地よさが染み渡るのを感じながら、ガス灯の柱にもたれかかった。

「ふう……」

ひと息ついて空を見上げると、眩しさの中に綿あめみたいな雲がぼっかり浮かんでいた。

極細のペンで線を何本も引いたような枝から枝へ、じれったいほどにゆっくり、ゆっくりと移動している。

「大丈夫かなあ、あいつ」

⑥さんざん盛り上がった朝の会の後、晴香は目眩がすると言って保健室に行ったっきり、結局戻って来なかった。

⑦急にああなるのも、これで二度目だ。どこか悪いんだろうか。

さすがに今日は※ビーチコーミングどころじゃないけど、一言も告げず先に下校するのは気が咎めるし、ましてこの炎天下だ。体調の優れないあいつを一人で帰らせるなんて、どうにも心許なくて。

様子を見にいった女子連中が付き添ってくれるのなら、それはそれでいいとして、別に急いで帰る理由もないし、とにかく出て来るまで待つことにしよう。

「それにしてもなあ……」

乾いたため息と共に、足元の松ぼっくりを、ぽーんと蹴つ飛ばしてやる。

今日の六年二組は、思いがけない人物の登場で、完全に浮き足立っていた。

だけど、オレだけは、終始その外側にいる感じだった。

どうにも気になって仕方がない。何がってわけじゃないんだ。ただ何となく、違和感があるっていうか、落ちつかないっていうか。それに、なぜだかあの海堂のことを、もつとずっと前から知っていたように思えてならない。

でも、この⑧モヤモヤした気持ち^⑧が一体何なのか、いくら考えても分かんないし、いつどこで会ったのかも、まったく思い出せなくて……

「遼哉くーん」

不意に松林の向こうから、いつもの元気な声が聞こえてきたかと思うと、「お待ちせー」と、（1）を切らしながら走り込んでくる。

「ごめんね、遅くなっちゃって」

「おいおい、走ったりしていいのかよ」

「うん、もう平気！ はいこれ、お詫びのしるし」

手渡されたのは、何と今日の給食の目玉、アーモンドカルではないか。

訊けば、たった今、取っておいてもらった給食を保健室で食べてきたばかりだという。

「大好物だって言ってたでしょ。だから食べたいのを我慢して持ってきてあげたんだよ。偉い？」

なんていじらしい子なんだろう。

確かに、席替え後早々に一度出たことがあって、その時もこんなふう——

あれ、⑨ ちよつと待てよ。

「でも、この前くれた時、確か小魚と目が合ってイヤだからいらなやかたって……」

途端に、へへーと舌を出す染井晴香十一歳かっこ小悪魔バージョン。

「やだ、ばればれ？」

「お前なあ」

きやははと駆け出した赤いランドセルを追いかけながら、こりやどうやら完全復活だなど一安心しつつ、オレたちはそのまま競うように砂浜まで走った。

サザザーン…… シャー

水面に揺らめく長い影が、波に洗い流されるかのごとく、刻々とその色を薄めてゆく。

シャザザーン……

時折訪れる、短い無音無風の狭間。

そこへ合いの（2）を入れるかのように、リリ、リリ……と微かに鈴が転がる音が聞こえてくる。

それに耳を傾けつつ、今日も⑩ たわいない会話を楽しみながら、ゆっくり、ゆっくりと、肩を並べて歩く。

（出典 川口 雅幸『UFOがくれた夏 A Summer with UFO』）

※ ビーチコーミング……海岸や浜辺に打ち上げられた漂着物を収集すること。

問1 ———線①「そっちのほう」とありますが、それは具体的にどのようなことですか。本文中から十七字でぬき出して答えなさい。

問2 に入る語句としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 軽くすねてみながら イ 感情をたかぶらせて ウ 悲しみにくくて エ ぼんやりしながら

問3 ———線②「暇を持て余して」、———線⑩「たわいない」の言葉の意味としてふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

②暇を持て余して

⑩たわいない

ア のんびり過ごして

ア 真剣味しんけんみが感じられない

イ 休みをもらって

イ 特に重要ではない

ウ 穏おだやかな気持ちで

ウ 全てすべてに忘れてしまう

エ することがなく困こまって

エ 全く意外性がない

問4 ———線③「宇宙人の乗り物だという説にはあまり関心がありませんけど」とありますが、小早川くんが宇宙人の乗り物だという説に関心がないのはなぜですか。本文中の言葉を用いて二十字以内で答えなさい。

問5 Aに入る語句としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア ぐったりと イ こっそりと ウ あっさりと エ のびのびと

問6 ———線④「単純」と反対の意味を持つ言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 複雑 イ 混雑 ウ 不明 エ 明確

問7 ———線⑤「あいつ」とありますが、それは誰だれのことですか。本文中からぬき出して答えなさい。

問8 ———線⑥ 「さんざん盛り上がった朝の会」とありますが、どのようなことで盛り上がったのですか。本文中の言葉を用いて二十五字以内で答えなさい。

問9 ———線⑦ 「急にああなる」とありますが、それは誰がどうなることですか。本文中の言葉を用いて十五字以内で答えなさい。

問10 ———線⑧ 「モヤモヤした気持ち」とありますが、それはどのような気持ちですか。本文中の言葉を用いて四十字以内で答えなさい。

問11 (1) (2) に入る語としてふさわしい漢字一字をそれぞれ答えなさい。

問12 ———線⑨ 「ちよつと待てよ」とありますが、このときの遼哉の気持ちを説明した次の文の()にあてはまる言葉を(A)はぬき出し、(B)は考えて答えなさい。

初めは晴香の行動を(A)と感じた遼哉だが、以前のことを思い出し、本当は自分が(B)アーモンドカルを、遼哉に食べさせようとしたのだと気がついた。

問13 に入る語句としてふさわしい言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア なぜか イ つまり ウ きつと エ まるで

問14 登場人物の説明としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 初めに登場する小早川くんは、知識をひけらかし遼哉を常にばかにしている人物である。

イ 遼哉が気にかけている晴香は、遼哉の気持ちを知りながらそれを踏みにじるいじわるな人物である。

ウ 晴香にほのかな恋心を抱いて(いだ)いる遼哉は、晴香の体調を心配し(こころ)気づかう心優しい人物である。

エ 遼哉はクラスメイトと共通の話題を持たず、打ち解けられない(こぞ)孤独を抱える人物である。

③ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(設問の都合で図は省略しました。)

① 食べられないための工夫

シカが植物を食べることは植物体の一部を奪うことであるから、植物にとつてマイナスである。葉を食べられれば光合成による物質生産が※阻害されるし、枝を食べられれば構造的に不利になるし、種子を食べられれば次世代の更新にマイナスが生じる。

植物と動物との相互関係の歴史は長く、その歴史の中でさまざまなできごとがあつたはずである。ひとことではいえない、植物は食べられればなしではありえず、食べられることに抵抗してきた。

食べられて困るのであれば、食べられないようにするというのが正当な対応である。おいしいから食べられるのであれば、まずくなればよい。実際、食べてまずい植物はある。渋い植物や苦い植物はたくさんあるが、これらは昆虫や哺乳類などから食べられないための適応である。そしてもつと強力に、毒をもつことで食べられなくした植物もある。シカでいえば、ハンゴンソウ(図3-2)などはタンニンを含むので食べないし、クリンソウ(図3-3)やワラビなどは有毒であるので食べない。人間はワラビを食べるがこれは加熱処理などをして解毒しているからである。

またトゲをもつことで食べにくくなっている植物もある。サンショウ(図3-4)やイラクサなどがそうである。もつともニガイチゴやサルトリイバラにはトゲがあるが、シカはさほど気にしないで食べるようだ。

こうして植物は食べられることを回避するものがたくさんある。これは草食動物との「※軍拡競争」から生まれた防衛といふことができる。

逆の発想

攻められるのなら守る。これが防衛の基本である。「」である。なんらかの条件が整うとシカが増える。たとえば森林が伐採され、それまで暗かった地面に日が当たるようになり、植物が増加したときなどである。食物としての植物が増えれば、シカが寄ってくる。シカは大食だから、植物群落はたちまち変化してゆく。防衛をしていない植物は減ってゆき、トゲがあつたり、毒をもつなどして食べられない「防衛」植物の割合が大きくなっていく。私
はそういう場所で植物の観察をしてきたが、植物群落の変化は②
②
③
③
④
④
⑤
⑤
⑥
⑥
⑦
⑦
⑧
⑧
⑨
⑨
⑩
⑩
⑪
⑪
⑫
⑫
⑬
⑬
⑭
⑭
⑮
⑮
⑯
⑯
⑰
⑰
⑱
⑱
⑲
⑲
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕
㉖
㉗
㉘
㉙
㉚
㉛
㉜
㉝
㉞
㉟
㊱
㊲
㊳
㊴
㊵
㊶
㊷
㊸
㊹
㊺
㊻
㊼
㊽
㊾
㊿
ススキの葉の縁には鋭い※逆棘があつて、下手に葉をつかむと手が切れるほどだが)。
③これは矛盾している(もつとも

食べられる植物が多くなるとはどういうことか。こういう矛盾に満ちたことにこそ、植物のしたたかさと、個々の植物種と群落の違いの※妙味が潜んでいる。

シバは食べられても大丈夫？

同じ「食べられる」ことが動物では死を意味するが、植物ではそうではないという、さほどたいしたことでもないようなことが、④ 実はなかなか深い意味をもっている。庭で雑草取りをしたことのある人は、植物をつまんで引いたときに、スポンと抜けるものと、葉や茎はとれても根が残るものがあるのを体験しているはずだ。引き抜ける植物はそれで消えてなくなるが、根を残すものは、しばらくするとまた伸びてきて、やっかいである。刈り取りをしても、アサガオやヒマワリのような植物は刈られればそれで枯れるが、牧草のような草はまた伸びてくる。これは植物の※形態学的な違いによる。キク科のような双子葉草本は茎の先端に※生長点をもつが、ススキやシバのようなイネ科は地面ぎりぎりのところに生長点がある。このため一定の高さで葉が刈られると、双子葉類は再生がむずかしいが、イネ科は大丈夫ということになる。

ススキは背が高く二メートルを超えることも珍しくない。ススキ群落を遠くからながめると、無数のススキの茎が葉をつけ、穂をつけているのがみえるが、中に入ってみると、株になって一か所から放射状に伸びているのがわかる。株の中は茎がぎっしり集まっているが、この茎は地下ではその名も「地下茎」でつながっている。地下茎は株の外側に向かって先がY字状に分かれ、その先から翌年の新しい茎を伸ばす。こうしてできる株は直径はせいぜい一メートルくらいで、そこから二メートルを超える草丈の高い茎が伸びる「縦長」の構造になっている。

これと対照的なのがシバだ。シバは草丈がせいぜい一〇センチほどしかない。これもススキと同じように地下茎をもっているが、そのようすは少し違う。ススキでは地下茎の先から新しい茎が伸びるが、シバはひとつの地下茎にあるたくさんの節から何本もの茎を出す。いまこれを潜水艦と※潜望鏡にたとえると、潜水艦の本体が進行方向にどんどん伸び、先に進みながら潜望鏡を次々に出してゆく。シバの地下茎と茎の関係はまさにこういう形になっている。シバの地下茎の長さは調べるのがむずかしいが、ある実験によると一シーズンで一〇メートルを超えるという。これは出発点から先端までの一本の地下茎の長さだが、実際には先がY字型に枝分かかれ、その先がさらにY字型に枝分かかるといふふうにネットワークを拡げてゆくから、総延長はたいへんな長さになる。地上部は一〇センチにも満たないのに、地下茎は一〇メートルを超える。シバは典型的な「横長」の構造をもっている。

ススキもシバも同じイネ科に属し、生長点は低いので、刈り取りや採食にあつても再生できる。それでも縦長のススキは繰り返し刈り取られると縦方向への投資が過剰になつて草丈の高い茎は出せなくなる。これに対してシバはもともと垂直方向へは伸びないから、葉を食べられても関係なく地下茎を水平に伸ばす。地上を刈り取られることはマイナスにならないのである。

食べられても大丈夫どころか……

シバは縦より横に伸びるから上から食べる「攻撃」に耐えることができる。これは採食は植物にとってマイナスではあるが、ダメージは小さいという意味である。これは当たり前のことのようであるが、実は正しくない。

私たちは忘れがちであるが、植物群落にはひとつの種だけが生えているということはほとんどない。シバもしかり。ふつうのシバ群落には三〇種ほどの植物がいつしよに生えている。そして刈り取りや放牧によって草丈が低く抑えられている。(B)、こうした働きかけがなくなれば、草丈が高くなる植物も生育することができるようになり、一センチでも草丈の高い植物が光を得るのに有利となる。つまり「日照権」の問題である。背の低い植物はそれまで得ていた光が得られなくなるから不利になり、ついには消滅してしまう。

いま、ススキとシバが生えているところにシカがいるとしよう。シカはススキもシバも食べるが、食べられることに弱いススキは次第に少なくなり、シバは順調に育つ。シカの密度が高ければやがてススキは消滅してシバ群落となるだろう(図3・5)。(C)、シカがいなくなると、ススキは順調に上に伸びてゆく。そうなるとシバは光を得られなくなり、急速に減少する。

こう考えると、シバはシカが「いても大丈夫」ではなく、シカが「いないと困る」ということが理解される。自然界には変わった生き物がいるが、シバはふつうの植物にとってマイナスでしかない「食べられる」ということを、むしろプラスに利用しているということになる。こう見てくると、なにげない植物であるシバも自然界の変わり者ということが出来る。

攻められれば守る。これはまっとうな防衛である。しかし相手の攻撃をうまく利用する闘いもある。柔道の技には相手の力を利用するものがあるが、それと通じるものがある。その意味で、シバの生き方はなかなかしたたかである。

重要なことは、このことはシバとシカの関係だけを考えていたのではわからないということである。シバとススキが光を求めて競争関係にあり、その関係にシカが介入するととらえることによってはじめて理解できることである。これが最初のところで述べた、「鳥の目」的な視点のひとつである。

(出典 高槻 成紀／南 正人『野生動物への2つの視点 “虫の目” と “鳥の目”』)

- ※ 阻害：物事の運行を邪魔すること。
- ※ 軍拡競争：自分の勢力を他よりも優位にしようとする争い。
- ※ 逆棘：上向きにささったとげ。
- ※ 妙味：なんともいいようのないすぐれたおもむき。
- ※ 形態学：ある構造を備えた物事を外からとらえた学問。
- ※ 生長点：細胞分裂を活発に行って新しい組織を作る成分。
- ※ 潜望鏡：潜水艦などが、外を窺うために使う望遠鏡。
- ※ 日照権：日光を確保する権利。
- ※ 介入：第三者が事件に関わること。

問1 ———線① 「食べられないための工夫」とありますが、それはどのようなものですか。本文中の言葉を用いて三点答えなさい。

問2 に入る慣用句としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 備えあれば憂いなし イ 目からうろこ ウ すずめ百まで躍り忘れず エ 乗りかかった舟

問3 ———線② 「そういうもの」とありますが、それはどのようなことを指していますか。解答欄に合うように本文中から十八字でぬき出して答えなさい（句読点や記号も含む）。

問4 (A) (C)に入る語を、次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア したがって イ なぜなら ウ だが エ たとえば オ むしろ

問5 ———線③ 「これは矛盾している」とありますが、どのような点でつじつまが合わないのですか。本文中の言葉を用いて三十字以内で具体的に答えなさい。

問6 ———線④ 「実はなかなか深い意味をもっている」とありますが、「なかなか」はどの言葉にかかっていますか。次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

実は なかなか ア 深い イ 意味を ウ もつて エ いる。

問7 次の表は植物の生長点や茎の伸び方についてまとめたものです。() にあてはまる言葉をそれぞれ本文中からぬき出して答えなさい。

		植物名	生長点の場所	茎の伸び方
イネ科	シバ	アサガオ・ヒマワリ	(1) に生長点がある	/
	ススキ		(2) に生長点がある	
			(2) に生長点がある	(3)
			(2) に生長点がある	(4)

問8 シカとススキ、シバの関係を説明した次の文の () に入る語を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

さらにシカの密度が高い場所では、ススキは (A) し、シバは (B) する。一方、シカがいなくなるとススキは (C) し、シバは (D) する。

ア 増加 イ 減少

問9 この文章から読み取ることのできるものとしてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 食べられないための工夫をする植物がある中で、シバやススキは工夫もせず生き残っていることが分かる。
- イ シカとシバの関係だけでなくススキも含めて観察することで、シバのしたたかな生き方が見えてくる。
- ウ 植物の姿や形はそれぞれ異なっているが、どの植物も同じような生長をしていることが分かる。
- エ 一つの植物の特徴を細かく観察することでは、植物が生き残るための工夫は見えてこない。

問10 本文にあるような、その時はマイナスに感じられたことが、後からプラスになったと感じたあなたの経験を一つ挙げ、それについてあなたの意見を八〇字から一〇〇字で書きなさい。

これで問題は終わりです。